

教育目標	○深く考えて行動する子(めあてをもち、自ら学ぶ子) ○思いやりのある子(心優しく、助け合う子) ○健康で明るい子(命の大切さがわかる、たくましい子)
めざす学校像	○子供の学ぶ意欲と喜びのあふれる学校 ○いじめのない、子供が安心して通える学校 ○子供と地域社会を結ぶ学校 ○学びと体力向上の喜びを与える教師
めざす教師像	○現状把握を的確に行い子供の心に寄り添う教師 ○はじめある指導を適切に行う教師 ○誠意をもって外部応対できる教師

努力指標・成果指標の数値は4段階評定です。

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標(中間)	努力指標(成果)	成果指標(中間)	成果指標(最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
知	確かな学力の育成	基礎基本の定着	習熟度指導・個別指導の充実、ICT機器の積極的な活用、学習習熟度を高めるための家庭学習の計画的な提示、学習規律の確立	3		3		・基礎基本の学力は今後も繰り返し毎日指導していき、定着を図る必要がある。タブレット型パソコンの活用方法については、計画的に各教科でどのように活用していくのかを学年で共通理解して取り組むことが大切である。また、活用していく中で書く学習が減らないような工夫も必要である。	授業の中で効果的にタブレット型パソコンを使用することが大切であるため、今後も教員が研修を積み、学習活動の中にICT機器を取り入れて学力向上に努めていってほしい。さらに、児童が学習の中でICT活用を選択できる力もつけていくことを期待している。
		読解力の向上に基づく言語能力の育成	計画的な読書活動、教員による読み聞かせや一人読書と本紹介、言語能力育成を視点にした日常的な授業改善	3		3		・朝読書や業間の一人読書は定着してきているが、タブレット型パソコンの活用と読書のバランスを考えていく必要を感じている。国語の言語学習においても指導時間数が少ないが丁寧に指導していく。	児童は校内で朝読書や読書句間を計画的に設定しているため、日頃から読書をする習慣は身に付いている。休み時間や隙間時間に本に親しんでいる児童がどの学年でも見られる。授業だけではなく、学校生活の中で、言語能力の育成を図る具体的な手立てを工夫してほしい。
		体験的な学習の充実	コミュニティ・スクールとして、地域の人材やボランティア、教材を活用した学習(毎学期)、体験的学習を取り入れた授業実践	4		4		・年度初めに年間計画を立て、学習年間指導計画に沿って実施していく。今後も計画的に実施していくために見直しをもって各学年主任を中心に連絡や打ち合わせをしていく必要がある。	コロナ禍であっても対策を取りながら計画的に様々な体験的学習を実施している。今後も地域人材を活用して児童のより深い学びにつながる体験的な学習を保護者、地域に拡大して展開していってほしい。
徳	豊かな人間性の確立	はじめある学校生活	あいさつの励行、「九小の約束」の徹底、特別支援教育の視点に基づく指導、いじめ・不登校の未然防止、早期対応	3		3		・児童の様子を教員間で共有し、きまりを守ることを効果的に提示する等、具体的な対策をたてて継続的に指導していく。 ・いじめの早期発見に努め、対策委員会で共有、検討し、全教職員で対応にあたる。担任が抱え込まない職場づくりが大切である。	児童から元気な挨拶があり、チャイムを守って行動している姿も見られる。安全のためにも廊下歩行は引き続き指導が必要である。いじめ・不登校の対策については、学校が組織的に対応していることが分かる。更なる丁寧な対応を望む。
		思いやりと感謝の心の育成	児童理解のための教員研修、縦割り班活動である「九小タイム」の充実、道徳授業の授業改善、代表委員会の「いいねカード」の取組	3		3		・今後も道徳の授業の充実を図り、各学級、各学年の良い取組などに関して共有していくとさらに思いやりと感謝の心の育成につながる。学校生活の各場面で児童の姿を認めていくことが大切である。「九小タイム」もさらに充実していく。	児童の異学年交流の場である「九小タイム」は児童間の温かい交流が見られる。代表委員会による「いいねカード」の取組も児童主体で取り組んでいる様子が見られた。今後は様々な場面で温かい心の育成を期待している。
		音楽・芸術活動の充実	音楽集会の充実、学級における音楽活動(毎月の歌)、図工作品の展示(展覧会)、日本の伝統文化を活かした活動						
体	健康でたくましい心身の育成	食の教育の充実	体験的な食育の実践、栄養士・調理員との交流、「もぐもぐタイム」の実践	4		3		・個人差はあるが、量をあまり食べない児童への声掛けや残菜を減らすための給食委員会の取組が効果的である。引き続き、「もぐもぐタイム」の時間を確保し、完食することや栄養について考えていくことを目指す。完食は強制しない。	少食の児童に対して、担任の声のかけ方を工夫していくと、児童が食材に興味をもって少しずつ食することができる。学級での完食に対する取組も工夫していることがわかった。今後は感染状況にもよるが、体験的な食育の実践も拡大してほしい。
		体力増進に向けた活動の充実	運動量の確保を目指す体育学習、大縄跳び、学級での休み時間の取組、外遊びの推進	3		3		・外遊び割当日に一部の児童が中休みに室内にいたことがあったので、継続的に声掛けをしていくこと、学級指導も併せてしていくことが大切である。引き続き、体力増進に向けて各クラスで工夫して計画的に実施していくことも必要である。	コロナ禍で運動する機会も減っているが、担任も児童と一緒に外遊びをしている様子が見られた。感染対策の関係で中休みの校庭遊びは低・高学年と分けて行っているようであるが、体育館遊びも取り入れながら、児童の体力増進に努めていってほしい。
		児童の危機意識の向上	地域との連携を図る避難訓練、登下校訓練、定期的な安全指導朝会・安全点検、危機回避能力の育成	3		3		・登下校時や放課後の交通ルールを守っていない児童に対する対策を生活指導部を中心に考え、教職員全体で児童に伝えていく。避難訓練は毎回、緊張感をもって実施していくことが重要である。	避難訓練では児童が迅速に避難している様子が見られた。安全指導朝会や下校前に、周囲をよく見て迷惑をかけないように歩行や行動をするように指導していくとさらによい。